

令和5年度（2023年度）第3回北海道病院事業推進委員会における評価意見などへの取組・対応状況

評価意見		令和5年度下半期の取組・対応など
評価書該当ページ	点検評価意見	取組・対応状況
P12 経営改善に向けた評価	昨年度に比べ、患者紹介及び逆紹介件数が増加したことは評価する。引き続き、地域連携室による患者確保の取組を推進するとともに、令和6年度に実施される診療報酬の改定も見据えながら収益の確保に向けた検討を進めること。	<ul style="list-style-type: none"> ○地域連携室において講演会や医療・介護関係者の会議等に参画し、病院機能の周知を行うことで、患者数の確保に努めている。（江差） ○広報誌の発行、公開講座等の開催及びSNS等の活用により、病院機能や取組について周知するとともに、関係施設等への訪問を行うことで、連携の強化を図っている。（羽幌） ○ケース会議やケア会議を開催するほか、保健所主催の地域連携会議に出席するなど、地域との連携強化を進め、患者の確保に努める。（緑ヶ丘） ○地域の連携強化を目的として、近隣の自治体や医療機関を訪問し、病院機能の周知や患者紹介の依頼を行っている。（向陽ヶ丘） ○道内の医療機関に対する個別訪問や地域連携セミナーの実施により、地域の関係機関等との連携強化を図っている。（コドモックル） ○診療報酬改定に係る情報収集に努めるほか、医事委託業者と連携し改定後の施設基準の確認を行い、随時各病院に情報提供する。（本庁・経営改革課） ○診療報酬請求適正化対策を行う委員会において、報酬改定に係る対応や新たな施設基準・加算取得に向けた検討を行っている。（5病院） ○情報通信機器を用いた診療（オンライン診療）に係る基準の届出を行った。（羽幌） ○院内会議において、診療報酬改定に向け、院内での情報共有や対応を検討すると共に医事委託業者と打合せを行っている。また、他医療機関との連携機能を精査することで「このころの連携指導料II」（R5.11）の届出を新たに行った。（緑ヶ丘） ○関係セクションが連携し、新規加算の取得のための体制づくり等を行い、第3四半期までに、新たに情報通信機器を用いた診療に係る施設基準の届出を行った。（コドモックル）

評価意見		令和5年度下半期の取組・対応など	
評価書該当ページ	点検評価意見	取組・対応状況	
	<p>費用の縮減にあたり、本庁一括契約の実施や各病院における後発医薬品の利用促進の取組を進めたことは評価する。これまでの取組を継続するとともに更なる縮減に努めること。</p>	<p>○令和5年度下半期本庁一括契約の状況</p> <ul style="list-style-type: none"> ・医薬品の本庁一括契約 396品目（前年度比 382件 +14件） ○医事業務においては次年度、公募型プロポーザル方式による契約を検討しており、本庁一括契約による費用節減と医事業務の質を確保する見込み。（本庁・経営改革課） ○各病院の薬事委員会において、後発品の採用や使用頻度の低い医薬品の採用中止について検討するなど、医薬材料費の縮減に努めている。（5病院） 	
	<p>就職説明会やホームページなどを活用し、医師をはじめとした医療従事者の確保を図ったことは評価する。引き続き、効果的な病院経営が行われるよう医療従事者の確保に努めること。</p>	<p>○医療従事者確保の取組（本庁・人材確保対策室）</p> <p><医師></p> <ul style="list-style-type: none"> ・採用者数1名（総合診療医・10月採用） ・道内3医育大学への医師派遣要請（15回）を実施 ・各種情報誌等を活用した公募を実施（2誌） ・関係団体や業界が発行する冊子への募集広告の掲載 ・インターネット（ホームページやSNS等）による募集活動の実施 ・民間人材紹介事業者を活用した募集活動（求職医師へのアプローチ等）、契約（民間人材紹介事業者7社と契約更新） ・専門医養成プログラムの整備、運用（後期研修医受入状況：羽幌2名、コドモックル2名） <p><看護師・助産師></p> <ul style="list-style-type: none"> ・採用者数1名（11月採用選考試験受験者） （R5年度採用者累計18名） ・民間企業・養成校等主催の就職説明会の参加（5回） ・看護師養成校を訪問（6校）し、病院紹介や新人看護師キャリアアッププランを周知 ・民間の看護師就職情報サイトを活用した看護師募集（新卒者向けサイト：3社、既卒者向けサイト：1社を追加した3社） 	

評価意見		令和5年度下半期の取組・対応など
評価書該当ページ	点検評価意見	取組・対応状況
		<ul style="list-style-type: none"> インターネット（ホームページやSNS等）による募集活動の実施 任期付職員等雇用形態別の採用条件及び募集情報の周知（Webページの更新） 民間人材紹介事業者（6社）を活用した募集活動（求職者へのアプローチ等） 道立病院の視察・勤務体験実施 R5.10～R5.12視察・勤務体験者数 7名 （内訳：江差1名、羽幌1名、向陽ヶ丘2名、コドモックル3名） <p><薬剤師・その他コメディカル></p> <ul style="list-style-type: none"> 薬剤師採用者数1名（10月採用） 診療放射線技師採用者数1名（10月採用） 道内薬剤師養成校への訪問（2大学） 道内外の薬剤師養成校への働きかけ 臨床検査技師養成校主催のWeb就職説明会への参加（2校）
	江差病院と羽幌病院において、ICTを活用し診療情報を他の医療機関と共有を図り、スムーズな治療につなげたことは評価する。道立病院全体として、更なる経営の効率化に向け、ICT活用に努めること。	<p>○ICTの活用状況</p> <ul style="list-style-type: none"> 江差：ID-Linkシステムの活用により患者の診療データの共有を図り、地域連携の実現に努めている。 羽幌：関係病院間での画像共有等を行い、迅速な治療につなげている。（R5.11月末時点で46件） <p>○今後の取組予定</p> <ul style="list-style-type: none"> 今期は対象となる患者がおらず実績はなかったが、引き続き、札医大との遠隔診療の活用に努める。 医療のアクセシビリティ確保のため、通院困難等の患者の特殊事情を踏まえ、必要に応じてオンライン診療を実施する。（R6当初要求関連：コドモックル）

評価意見		令和5年度下半期の取組・対応など	
評価書該当ページ	点検評価意見	取組・対応状況	
P 1 6 江差	<p>精神科診療体制については、関係機関との調整を行い、外来機能の充実に向けた体制整備を進めたこと、また、人工透析患者の増加</p> <p>病床利用率が低調であることから、地域連携室を中心として患者確保に取り組むとともに、地域医療連携推進法人での協議などにより、地域全体で将来的な医療機能や病床規模について検討を加速させること。</p>	<p>○精神科病床休診に伴う対応</p> <ul style="list-style-type: none"> ・外来午後診療や精神科ショートケアを継続実施し、外来機能の充実・強化に努める。 外来午後診療受診者(延べ患者) <ul style="list-style-type: none"> 第2四半期：5人 第3四半期：10人(5人増) ショートケア(実施件数) <ul style="list-style-type: none"> 第2四半期：41件 第3四半期：64件(23件増) <p>○人工透析患者増加への対応（R6当初要求関連）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・人工透析患者のニーズに対応するため、透析機器装置の増設や夜間透析の実施について検討を進めている。 <p>○地域連携室を中心とした患者確保の取組</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域連携室において講演会や医療・介護関係者の会議等に参画し、病院機能の周知を行うことで、患者数の確保に努めている。 <p>○地域医療連携推進法人での検討状況</p> <ul style="list-style-type: none"> ・11月に第2回病床機能検討委員会を開催し、救急医療の集約化や看護師不足対策について意見交換を行った。 下半期中に第3回の委員会を開催し、引き続き議論を進めることとしている。 	

評価意見		令和5年度下半期の取組・対応など	
評価書該当ページ	点検評価意見	取組・対応状況	
P 2 1 羽幌	総合診療専門研修プログラムの整備を行い、専攻医を確保したことは評価する。引き続き、医療従事者の確保等に取り組み、経営基盤の強化に努めること。	<p>○専攻医確保状況</p> <ul style="list-style-type: none"> 令和6年度採用予定数 3人（前年度比 ±0人） これまでの総合診療専門研修プログラム、新・家庭医療専門研修プログラム、病院総合診療専門研修プログラムに加え、令和6年度からは新たに地域総合診療専門医「専門研修プログラム」の募集を行い、専攻医の確保に努める。 連携施設を8施設から、新たに6施設を加え、14施設とした。 <p>○キッズセミナーの開催</p> <ul style="list-style-type: none"> 羽幌町・苫前町・初山別村の小中学生を対象に3月29日に開催予定。 	
	医師の確保により医業収益が前年度を上回るとともに、収支差を改善させたことは評価する。引き続き、地元自治体や関係機関との連携を図り、患者確保につなげること。	<p>○地元自治体等との連携状況</p> <ul style="list-style-type: none"> 自治体が実施する健康診断・予防接種を受託した。 町内の特別養護老人ホームや認知症グループホームなどの施設等と連携し、地域包括ケア病床を活用した、メディカルショートステイの受入れを行った。 遠別町立国保病院において入院の受入れを休止していた期間、他急性期病院に入院中の遠別町の患者の受入調整等を行ったほか、地域連携室が窓口となり、遠別町内の特別養護老人ホームへの入所につなげた。 	

評価意見		令和5年度下半期の取組・対応など	
評価書該当ページ	点検評価意見	取組・対応状況	
P25 緑ヶ丘	収益、費用及び患者数が目標を達成し、前年度に比べ収支差を改善させたことは評価する。引き続き、スーパー救急病棟での患者受入や地域連携室を中心として、院内外の連携を一層強化した上で収益の確保に努めること。	<ul style="list-style-type: none"> ○患者確保の取組 <ul style="list-style-type: none"> ・院内の病床管理委員会において病床運用の効率化を図り、入院患者の積極的な受入れに取り組む。 ○院内外の連携状況 <ul style="list-style-type: none"> ・ケース会議やケア会議を開催するほか、保健所主催の地域連携会議に出席するなど、地域との連携強化を進め、患者の確保に努める。 	
	施設老朽化の状況を踏まえ、地元自治体や関係機関等から地域のニーズを把握した上で病院の役割や病床規模など、あり方について検討を進めること。	<ul style="list-style-type: none"> ○あり方検討状況 <ul style="list-style-type: none"> ・地元自治体や関係機関の意見等を踏まえ、病院の今後のあり方について、引き続き検討する。 	

評価意見		令和5年度下半期の取組・対応など
評価書該当ページ	点検評価意見	取組・対応状況
P29 向陽ヶ丘	<p>デイケア利用希望者が見学をする際に担当医師が同行するなどの取組により、デイケア件数が昨年度を上回ったことは評価する。引き続き、地域連携室を中心に地域の自治体や医療機関等と連携を図り、患者確保に努めること。</p> <p>病床利用率が低調であることから、圏域における人口減少などの影響を踏まえつつ、地元自治体や関係機関等から地域のニーズを把握した上で、将来的な病床規模について検討を進めること。</p>	<p>○デイケア利用件数増に向けた取組</p> <ul style="list-style-type: none"> 患者の状態及びニーズに合わせたプログラムを提供し、患者数の確保に努める。 <p>○院内外の連携状況や患者確保の取組</p> <ul style="list-style-type: none"> 院内で対象者の情報を共有し、対象者の掘り起こしや通所再開の勧奨に努めるほか、地域との関係構築を進め新規利用者の確保を図る。 <hr/> <p>○病床規模の検討に向けた取組状況</p> <ul style="list-style-type: none"> 関係機関を訪問し病院機能の周知や医療情報の共有を行うほか、多職種連携による交流会等により圏域における医療ニーズを把握しながら、地域から求められる機能や病床規模について検討を進める。

評価意見		令和5年度下半期の取組・対応など
評価書該当ページ	点検評価意見	取組・対応状況
P34 コードモックル	<p>近隣の産科クリニックを訪問し、センターの役割や機能を周知するなどして、NICUやGCUの利用率及び管理料算定率を向上させたことは評価する。今後も、医療機関への個別訪問やセミナーの開催などを通じ、患者確保に努めること。</p>	<p>○病床利用率及び管理料算定率向上に向けた取組</p> <ul style="list-style-type: none"> ・上期に引き続き、軽症患者等も含め受入要請に対応していく。また、管理料算定日数を意識し、効率的なベッドコントロールに努める。 <p>○個別訪問・セミナーの開催状況</p> <ul style="list-style-type: none"> ・個別訪問 8件（10月4件、11月2件、12月2件）本年度終了 ・セミナー 9件見込（10月3件、11月4件、12月1件、2月1件）
	<p>様々な制約がある中、後発医薬品の使用割合が昨年度を上回ったことは評価する。引き続き、医薬材料費対医業収益比率の低減が図られるよう努めること。</p>	<p>○医薬材料費節減に向けた取組</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各部門間の連携により、無駄のない医薬材料等の使用に努め、廃棄率等の減少を図る。
	<p>令和6年6月から始まるDPC算定に向け、高度な小児医療を担う他の病院との比較検証による医療の平準化や効率的な医療の提供による費用の縮減などの効果が最大限発揮されるよう、引き続き、必要な対応や取組を進めること。</p>	<p>○DPC算定開始に向けた検討・取組状況</p> <ul style="list-style-type: none"> ・引き続きDPC後の外来検査体制を検討する。 ・1月から、医師・看護師向けにDPCシステムの操作研修を実施し、DPC算定への円滑な移行に向け準備を進めていく。 <p>○DPC開始後の運営体制の検討状況</p> <ul style="list-style-type: none"> ・算定開始後は、病名コーディングや投入医療資源の管理を適切に行い、DPC移行によるメリットを最大限発揮できるよう取り組む。

評価意見		令和5年度下半期の取組・対応など	
評価書該当ページ	点検評価意見	取組・対応状況	
P 3 5 全体	<p>病院によりばらつきはあるものの入院・外来患者数が増加し、全体では医業収益が前年度より改善していることは評価する。しかしながら、診療材料費や労務単価など物価高騰の影響が長期化していることから、収支の改善に向けた更なる取組が必要。</p>	<p>○下半期における収益確保の取組</p> <ul style="list-style-type: none"> ・人工透析患者のニーズに対応するため、透析機器装置の増設や夜間透析の実施について検討を進めている。(江差) ・地域医療連携推進法人での協議などにより、圏域内の機能分担や業務連携、病床機能などの検討を進めながら、患者の確保に努めている。(江差) ・透析患者に対し、運動療法等や自己管理を行えるよう指導することで、患者のADL向上等に努め、当院での透析継続を図る。(羽幌) ・引き続き精神保健福祉士による予診を行うことで、外来新規患者数の増加を図る。(緑ヶ丘) ・医療機関等への訪問を継続するほか、認知症疾患医療センターにおける出前講座等の実施を通じて新規患者の掘り起こしを図っていく。(向陽ヶ丘) ・PICU、NICU及びGCUの活用により、先天性心疾患等の重症患児の常時受入を継続するとともに、管理料算定日数を意識し、効率的なベッドコントロールの実施により病床利用率及び管理料算定率の向上に努めていく。(コドモックル) <p>○下半期における費用節減の取組</p> <ul style="list-style-type: none"> ・医療材料の共同購買事業を活用し、医薬材料費の縮減に努めている。(江差) ・院内の薬事委員会において、後発品の採用や使用頻度の低い医薬品の採用中止について検討するなど、医薬材料費の縮減に努めている。(5病院)【再掲】 ・各部門間の連携により、無駄のない医薬材料等の使用に努め、廃棄率等の減少を図っている。(コドモックル) 	

評価意見		令和5年度下半期の取組・対応など	
評価書該当ページ	点検評価意見	取組・対応状況	
	<p>地域から求められる病院機能を発揮することができるよう、引き続き、医療従事者の確保や地域の関係機関等との連携強化を進めること。</p>	<p>○医療従事者の確保対策（本庁・人材確保対策室）</p> <p>【実績】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・道内3医育大学を訪問（10月～12月） ・看護師養成校を6校訪問（10月～12月） ・病院局HPやSNSでの情報発信、就職情報サイトや人材紹介会社を活用した求職者へのアプローチ、就職説明会の参加、関係団体や業界が発行する冊子への募集広告の掲載等を実施。 ・道外13医育大学へ医師確保の依頼文を送付 <p>【今後の予定】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・旭川医大精神医学講座訪問（1月） ・道内薬科大学（2校）主催の合同就職説明会への参加（2月） ・民間企業・養成校主催の看護職就職説明会の参加（1～3月に計4回） ・看護師養成校の訪問（1月に9校） ・道立病院薬剤師情報交換会開催（3月予定） <p>○関係機関との連携強化</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域連携室において講演会や医療・介護関係者の会議等に参画し、病院機能の周知を行うことで、連携の強化を図っている。（江差）【再掲】 ・広報誌の発行、公開講座等の開催及びSNS等の活用により、病院機能や取組について周知するとともに、関係施設等への訪問を行うことで、連携の強化を図っている。（羽幌）【再掲】 ・下半期においては医師確保や関係作りを目的とし、事務長が医大訪問するほか、保健所が主催する地域連携推進委員会に出席するなどの連携強化を図っている。（緑ヶ丘） ・近隣の自治体や医療機関を訪問し、病院機能を周知するなどの連携強化を図っている。（向陽ヶ丘） 	

評価意見		令和5年度下半期の取組・対応など	
評価書該当ページ	点検評価意見	取組・対応状況	
	改訂プランにおける令和6年度以降の収支計画等の策定に向けては、新型コロナウイルス感染症の影響も見極めつつ、病院経営の安定化に資する各種取組も検討しながら、その効果等を収支計画に反映した上で目指すべき患者数の見込みや数値目標を適切に設定すること。	<ul style="list-style-type: none"> ・道内の医療機関に対する個別訪問や地域連携セミナーの実施により、地域の関係機関等との連携強化を図っている。(コドモックル)【再掲】 	
		<p>○収支計画の策定</p> <ul style="list-style-type: none"> ・令和6年度以降の収支計画については、新型コロナウイルス感染症を契機とした患者の受療動向の変化の可能性もあり、現時点の数値を基とする複数年の収支計画を策定することは困難と考え、令和6年度のみ単年度として調整を行った。 	

令和5年度（2023年度）第3回北海道病院事業推進委員会における評価意見などへの取組・対応状況

委員会議論	令和5年度下半期の取組・対応など
<p style="text-align: center;">委員意見 (要約)</p> <p>(第1章 経営改善の評価) 医薬材料費が上がっており、私どもでは、後発医薬品の使用率を上げていくこととしております。具体的には、バイオシミラーという薬剤の導入に舵を切っているのですが、道立病院の場合はいかがでしょうか。 【土橋委員】</p>	<p style="text-align: center;">取組・対応状況</p> <ul style="list-style-type: none"> ○後発医薬品の使用率向上 各病院の薬事委員会において、後発品の採用や使用頻度の低い医薬品の採用中止について検討するなど、医薬材料費の縮減に努めている。(5病院)【再掲】 ○使用医薬品(R5.12)の内、バイオシミラーに切り替えたもの <ul style="list-style-type: none"> ・江 差：8品目 ・羽 幌：4品目 ・緑ヶ丘：0品目 ・向陽ヶ丘：0品目 ・コトモックル：0品目 ○8品目において切替を実施、医薬材料費を50千円/月縮減した。今後も検討していく。(江差) ○4品目において切替を実施、医薬材料費を180千円/月縮減した。今後も薬事委員会で切替を検討していく。(羽幌) ○バイオ医薬品は使用数量が少ないが、薬事委員会で適宜検討していく。(コトモックル)
<p>(第2章 病院別評価・江差病院) 圏域内にある町立病院等との協力体制というのは非常に重要になってくると思います。 病床数をどれだけ町立病院等に残して、江差病院で確保するものは何かという話は大きいですね。 【土橋委員、小熊委員長】</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○地域医療連携推進法人での検討状況 <ul style="list-style-type: none"> ・地域医療連携推進法人において、病床機能検討委員会を開催し、救急医療の集約化について意見交換を行った。 ・引き続き、各医療機関の課題を共有し、圏域内の医療機能分担や業務連携、病床機能の検討を進める。

委員意見
(要約)

取組・対応状況

(第2章 病院別評価・コードモックル)

(DPCについて) 売上の8割くらいは、20%くらいの症例だと思います。こちらを徹底的に精緻化する、パスを作るという視点でやっていただければ間違いないのではないかと思います。

上手にやっているところは、効率的にやっているので、参考にさせていただければと思います。

【土橋委員、小熊委員長】

○DPC算定開始に向けた検討・取組状況

- ・引き続き、DPC後の外来検査体制を検討する。
- ・1月から、医師・看護師向けにDPCシステムの操作研修を実施し、DPC算定への円滑な移行に向け準備を進めていく。

○DPC開始後の運営体制の検討状況

- ・算定開始後は、病名コーディングや投入医療資源の管理を適切に行い、DPC移行によるメリットを最大限発揮できるよう取り組む。